

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	① 乙 第 号	氏 名	朝 倉 崇 徳
<p>論文審査担当者 主 査 内科学 別 役 智 子 (代行 金井 弥栄)</p> <p>衛生学公衆衛生学 岡 村 智 教 臨床検査医学 村 田 満</p> <p>外科学 浅 村 尚 生</p> <p>学力確認担当者： 審査委員長：岡村 智教</p> <p>試問日：平成30年 1月24日</p>			
<p>(論 文 審 査 の 要 旨)</p> <p>論文題名：Health-related quality of life is inversely correlated with C-reactive protein and age in <i>Mycobacterium avium</i> complex lung disease: a cross-sectional analysis of 235 patients (肺<i>Mycobacterium avium</i> complex症患者の健康関連QOLはC反応性蛋白と年齢に負の相関がある：235人の横断的解析)</p> <p>本論文では罹患率・死亡率の増加から公衆衛生的に重要である肺<i>Mycobacterium avium</i> complex (MAC) 症において、健康関連QOL (HRQL) が低下していること、その決定因子としてC反応性蛋白 (CRP) と年齢が重要であることを示した。</p> <p>審査では、まず、肺MAC症でHRQLに着目した意義について質疑があり、①多剤抗菌薬による長期の治療を要し、再発も多く難治性であること、②古典的な評価指標である喀痰や画像所見が症状を反映しない場合があること、から治療判断や疾病効果の指標としてHRQLが有用である可能性があるためと回答された。</p> <p>さらに、36-item Short Form health survey (SF-36) で身体的活動度が低下する理由について質疑があり、呼吸器疾患特異的なHRQL尺度であるSt. George's Respiratory Questionnaire (SGRQ) と身体活動度の相関から、息苦しさは身体活動度低下に関与した可能性があることと回答された。また、SF-36スコアと臨床像の相関を検討する際、年齢による補正がなされたかの質疑があり、本検討では年齢を補正していないため年齢に影響されるHRQLは過剰に評価した可能性があることと回答された。さらに、ヘモグロビンやCRPがSF-36へどのように影響したかについて質疑があり、慢性閉塞性肺疾患でこれらの項目と筋肉量・HRQL に相関があることが報告されており、慢性炎症による消耗が影響した可能性が考えられることと回答された。他の合併症による影響に関する質疑があり、Charlson併存疾患指数で評価していることから影響は少ないと考えられたが、フレイルといった高齢者特有の要素に関しては評価に限界があり、更なる検討が必要と回答された。今後CRPをどのように使用できるかについて質疑があり、肺MAC症では定められた治療開始基準がなく、経過観察や治療効果判定の指標として有用な可能性があることと回答された。</p> <p>肺MAC症の画像所見とHRQLの関連について質疑があり、肺MAC症では気管支拡張、空洞、結節などの多彩な病変をとり、本研究では画像を直接検討していないが、副論文において空洞や白い陰影の体積の増加に伴ってHRQLが低下することを示したと回答された。</p> <p>肺MAC症の診断契機の解析への影響について問われ、①大学病院単施設の研究であるため紹介患者が多いこと、②罹患年数中央値が5年と長いこと、が特徴であり、長期の罹患年数が過去の報告に比べ精神的健康が保たれていることに反映された可能性があることと回答された。またさらに、薬物治療について死亡をアウトカムとした研究の有無について質疑があり、現行治療は過去のhuman immunodeficiency virus (HIV) 感染に合併した播種性非結核性抗酸菌症に対する研究を元に作成され、直接死亡をアウトカムとして検証した論文はないと回答された。また、今後の研究の展望について問われ、今回は横断的解析であるため因果関係の決定が難しく、治療でHRQLが改善するかについて、前向きに経時的データを集積し調べる必要があることと回答された。</p> <p>以上、本研究はさらなる検討すべき課題を残しているものの、肺MAC症における健康関連QOLの低下とその予測因子を明らかにした点において、有意義な研究であると評価された。</p>			